

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100056		
法人名	たけのこ株式会社		
事業所名	グループホーム佐尉郷の驛		
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号		
自己評価作成日	平成29年3月20日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490100056-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490100056-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府荅番館1F		
訪問調査日	平成29年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達が常に目指している事は、常にご利用者様に向き合い、笑顔と安心を提供することです。グループホームは認知症ケアの専門施設です。食事や入浴などの支援はもちろんですが、私達に求められることは認知症であっても馴染みの地でその人らしく、あなたらしく輝き続ける事を目指します。そのために私達は時間をかけ、ゆっくりと、とことん向き合います。ご利用者様の思いや苦しみを感じ取り、寄り添い、支援をします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は旧地名「佐尉郷」にちなんで名づけられた、2ユニットのグループホームです。同敷地内に有料老人ホームがあり職員の連携も図れています。地域との信頼関係の構築に、経営者をはじめ、職員が積極的に取り組む中で、自治会に加入しており、行事への招待や、幼稚園、保育園児との交流、地域紙に1回事業所紹介、認知症の啓発活動を行う等、地域貢献を行い、事業所が地域の中で孤立することなく地域の一員として、地元の人々と交流することに努めています。「あなたらしく佐尉郷の地で～」を譲う理念を引き継ぎ、新しい管理者のもと新任職員が多い中、利用者の様々な思いの実現に向けて力を合わせ取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回のスタッフ会議の冒頭で理念を読み、確認を行っている。行事レク委員会が中心となり、行事の参加計画。回覧板や運営推進会議での情報収集、リーダーは地域の参加者と関係の構築を行う。	理念は業務マニュアルの中に記載し、月1回のスタッフ会議で、必ず理念の唱和から始まり共有に繋がっています。実践に関しては更に深めるよう努めています。	理念に関しては、開設当初に作成されており、全員で話し合い現状に即した理念を見直し、改正することも考えています。職員は理念をもとに年間目標及び個人目標をたて実践に繋げるとともに、理念がサービスに活かされているか、チェックする機会を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節毎の行事の参加、実施。保育所、保育園の来苑。日常的に散歩や買い物に出かけ、すれ違う方や店員の方と挨拶や交流を行う。小学生の下校をご利用者様と見送る。	自治会に加入、集会に参加し情報交換を行っています。施設長が地域活動に積極的に取り組む中で、幼稚園の運動会に、利用者・職員の招待があり、地域紙に認知症、介護技術の発信等、地域との相互関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域紙(マルコポーロという)に毎月記載。運営推進会議時に民生委員の方が認知症の方への関わり方の参考になるような事を実例を踏まえて紹介する。つまり、運営推進会議のみしか情報発信を行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひやりはっと報告では活発なご意見を頂けており、サービスの向上に大いに役立っている。現在の会議は会議室に籠もりっぱなしなので、今後は介護の現場を見て頂く等の会議の形を変えていく方向で検討。	運営推進会議は自治会代表、行政、家族代表、管理者等8~10名程のメンバーで構成され、2ヶ月毎に開催されています。事業所の透明性をアピールしており、メンバーからの活発な意見が出され、サービス向上に活かされています。	会議に職員を一人づつ交替で、書記として参加することで運営推進会議に対する職員の意識向上に繋がると思われます。今後の取り組みに期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議でしか職員は市町村の関係者とは顔を合わせる事が無い。どのようにすれば連絡を取れるのか？関係が作れるのか？といった行動をとっていない。	運営推進会議に市の担当者が出席された時に、事業所の近況報告を行い、相談やアドバイス頂き、会議が情報交換の場となっています。	行政との関係構築に向けての取り組みを考える中で、認定申請等で市に出向いた際に、担当者とコミュニケーションを取ったり、運営推進会議に職員も出席し行政と関わる機会を作りたいことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在4点柵が必要になってしまったご利用者様が居り、どうすれば柵を無くせるか？という話し合いをしている。職員の良い学びの機会と捕らえている。	年2回身体拘束廃止、虐待防止に関する研修会を顧問弁護士や専門家を招き開催しており、職員は拘束による内容や弊害を勉強し、利用者が抱える根本的な不安や混乱を取り除くケアを目指しています。	医師の指示、家族の許可を得て、ベッド柵を使用していますが、期間を決めており、その後の対策(床で寝る、マットを敷く等)で転倒防止予防を検討しています。虐待については、ミーティング等で日常的に話題にし目配り、気配り等で、全職員が意識されておりその継続を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修を行い、理解と学びを深めている。ただご利用者様に対し、暴力を振るうことが虐待ではなく、言葉によるもの、思いがけない行動が虐待に繋がる事がある事をリーダーが中心となり、日常的に目を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会をもっていない。また、どうすれば学べるのかといった姿勢もない。一部の職員が理解し、対応しているのが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ケアマネージャーが中心となり、十分な説明を時間をかけて行っている。ご理解とご納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から職員への意見や要望は頂いている。ご家族から部外者への情報発信については把握していない。その為、運営に反映されていない。	家族の意見、要望等は面会時に把握することが多く、年1回の家族会に7~8名の家族が参加し話し合われています。遠方の家族には月1度請求書と利用者の近況報告を行うとともに、電話等で話す中で思いを把握しています。家族の本音の表出は難しく今後の課題としています。	家族にはアンケート(無記名)を取り、ニーズの把握に努めるとともに、行事等の参加をお願いし、家族と話す機会を多く作ることに期待が持たれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関しては活発では無い。機会も設けていない。	会議やミーティング等で、職員の意見、提案等が出され、日々の業務改善やサービスに反映できるよう努めています。管理者も日々のケアに入り、話を聞き、風通しの良い職場作りに努力しています。	個人面談で職員が意見を出せる機会を作るとともに、労働条件の改善や職員の力量を助成した人事考課等、職員のモチベーションに繋がる取り組みを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	かなり努力をしてくれていると感じますが、全ての職員が実感しているとは言いがたいです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修参加費用を苑が負担してくれています。介護技術向上の為、月1度の会議時に研修を行っています。研修への参加を促す声かけも良くみられます。職員からの率直な意見もリーダーが聞いてくれ、対応してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現状、行っていない。行うべきと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通が不可能なご利用者が半数以上を占めていますので、出来て居ないと思います。その中で、知ろうとする事に対する職員の意識は高く、申し送りや会議でのその人その人のケアへのアプローチを様々な角度から行う努力はしていると思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、出来るだけ声をかけコミュニケーションを取っています。毎月1回ご利用者様のご様子を記したお手紙を送り、私達の取組を知って頂き、信頼関係の構築に努めていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、ご家族と当苑での話し合いを密にし、ご要望に添った支援を提供する様にしています。ご家族来苑時には、ケアマネジャーが中心となり、現在の思いを聞き取りし、ケアに反映しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お世話になって悪いなあ」とご利用者様がおっしゃると、ある職員が「いいえ、その分私達は○○様に笑顔を頂いています。お互い様ですね。」といったやり取りが先日ありました。毎日、全ての状況でこのようなやり取りがあるわけではありませんが、どんどんこのような状況が生まれると良いなと思っています。このやり取りを職員に周知したいと思います。職員により、まだまだ差があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診と一緒に来て頂いたり、ご家族によっては外食や外泊、ドライブにお連れしてくれます。先日、入浴がお嫌な方の息子様に、「お風呂はいいよー」と声をかけて頂きました。私達だけでなく、ご家族にもご協力頂けると実感しました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会はもちろんですが、ご友人の方も一部のご利用者様に限りますが、会いに来てくれております。ただ、馴染みの場所にお連れするのはさらにごく一部のご利用者様になってしまっています。	利用者の中には、施設の前を通る小学生を楽しみに眺め、ハイタッチをする方、地域の集会に行き馴染みの人々に会うのを楽しみにする方等、家族の協力も得て馴染みの関係継続が図られています。	利用者と一緒にゆっくり時間を取って話す中で、趣味、特技、こだわり等を生活歴から把握し話題の中に入れ思い出してもらい、外出できない利用者の支援に努めることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のあいさつや会話は日常的にみられます。時に喧嘩(口論)もします。とても良い事であり、エスカレートしないよう見守る事があります。レクリエーションも日常的に行い、共に何かをする時間も設けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は残念ながらこのような状況はありません。当苑としましては、退所後の皆様のご負担にならない様、いつでも連絡して下さいと声をかけています。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に伺い、困難な場合はご家族に伺う、日頃の会話や何気ない言葉、表情から得ようという意識を高く持ち関わっています。	利用者は自分の思いを表現する方は少なく、日頃の会話や表情等から思いを把握し、意思疎通が難しい方は、しぐさや行動から把握するよう努めており、連絡ノートで共有したい内容、特記(気づき)を記入し、毎月のユニット会議で話し合い支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族にこれまでの生活の聞きとりを細かく負担の無い様を行い、出来る限りご本人の生活週間に合わせて過ごして頂けるよう計画を立てています。日常において、意思疎通の困難な方には紙に書いて、見て頂き好みのものを指して頂くなどしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態を記録にて共有し、職員間で把握、対応出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からのご要望を伺う。又、日々の様子を見て職員で共有し、まとめた上でケアマネージャーを中心として職員で話し合い決定、実践する。その話し合いの場にご家族が参加したケースはこの所全くありません。	介護計画はケアマネージャーと担当職員がアセスメント・モニタリングを確実にしながら6ヶ月毎の見直しを行うとともに、状態の変化時に随時現状に即した介護計画を作成しています。介護記録の中に「キーワード(サービスの実施状況)」を設け支援できたか毎日チェックしています。	介護計画作成時に、家族が参加されるのが理想ですが、家族の意見や要望を把握し、計画に反映することで十分です。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録。日誌。排泄チェック表。連絡ノート。健康管理表が主だった当苑の記録です。これらを活用し、日々の申し送りを行い、すぐに対応が必要なケースや長期的に対応が必要なケースに柔軟に取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに従事している。発想を豊かにする為にどうすべきか考えなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館、保育園、幼稚園、公園のスペース利用。近所でお庭にお花を沢山植えているお宅に見学にお連れしています。小学生の下校お見送りもご利用者様としています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人、ご家族の意向に添っている。受診は職員が同行し受診の経緯を説明、医師の指示を受ける。定期的に往診をして頂ける医師もある。	利用者や家族の希望に添った医療機関への受診を支援しています。状況の変化に伴う職員同行の受診や、協力医院による往診も施されており、診察結果は職員間で共有し、家族へ報告も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、ケガ、便秘等、看護師に報告、相談し対応。必要であれば早目の受診を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な物はご家族と相談し、家族任せにせず対応している。様子を把握する為、お見舞いに行ったり、電話で連絡を取る。日頃から病院関係者に感謝の言葉を伝え、良好な関係を作れるようコミュニケーションを取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階とは言えないが、体調を崩された際等に、万が一や重度化された際の話し合いを持つ事が多い。当苑での生活が困難になった場合は、地域や医療の意見を反映しながら適切な環境への変更を支援しています。	施設における重度化・看取り支援への取り組みの現状について、契約時より利用者・家族へ説明が行われています。緊急時の対応、体調の変化への留意に努める過程において、状況を推し量りながら医師への相談・助言と、家族との相談・意向確認が行われています。	体調への配慮、より長期支援への取り組みにおいて、延長となり得る看取り支援における今後の意向(管理者)も図り知れます。可能である支援体制、協力医療機関との連携、職員のチーム介護への意思確認等の協議に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置。急変時のマニュアルを各箇所に掲示し、AEDを使用した、又使用しない場合の研修を定期的に行っている。頻度は少ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づいた訓練、定期的な防災訓練を行い、消火器の位置や避難経路、通報方法、避難場所、連絡網の確認を行っている。	併設する施設との総合避難訓練や独自の訓練にて、災害時の避難・対応の確認に努める様子が伺えます。管理者は、施設の現状(ハード・ソフト面)における災害時(特に夜間)における人材確保などにおいても危機感を認識しています。	防災責任者は、地域ニーズの把握と連携による地域間交流の体制づくり(災害の枠を超えた)への着目と、防災に関わる相互の安全対策の仕組みへと視野を広げており、進展に期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員で差があるのが現状です。幸いな事に、その事に気付ける職員が多く、その都度理解をしてもらう流れが来ています。定期的な会議でも伝えていますが、本当に難しい事だと実感しています。職員に指導ではなく、理解をってもらう事が大切と考え、伝えていますがまだまだです。	名前に「さん」付けを基本とし、利用者の尊厳(声かけ等)を大切に、羞恥心の配慮への取り組みに努める様子が伺えます。チーム力を活かす支援において、職員間での情報の共有と改善、内部での研修会が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時には靴下や上着を選んで頂く事があります。飲み物を提供する際にはメニューを作り、選択肢を持って頂いています。ご利用者様が何か行動を起こされた際にはまず様子を見て、何をされたいのか把握する事をしています。行動を予測して、職員が一方的に声をかけてしまう事も多く、完成されたものではありませんが、目指すべきものと信じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して、どうしてもこちら側の都合を優先してしまふ事が多々あります。その一つでも、ご利用者様のペースに合わせたものになるよう考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前、肌着の上にカーディガンを羽織っているご利用者様が居り、指示も無く話し合いが行われていました。ご本人の意思を尊重すべきか、どうか、といったものでした。内容は書ききれませんが、職員の意識は高く、支援していると思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間は、検食しながら職員もご利用者様と会話しながら行っています。笑い声が絶えないこともあります。食事の準備は職員が行っており、ご利用者様の参加はありません。お菓子作りや抹茶をたてる、ケーキ作りなどは頻度は低いですが、行っています。	調理担当職員により提供されており、嗜好の把握、行事食(お誕生会・お雑祭り・敬老会等)やおやつ作り(ラップでおはぎ)、多様な飲料の用意などによる食への楽しみ支援と、環境(食器の持ちやすさ・座席の配置)への配慮に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はこれまで当苑が提供して来た資料を参考に、素人目線ではありますが、極力バランスの取れた食事を提供していると感じます。健康チェック表を活用し、食事、水分の摂取量を毎日観察し、その時々での支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が一方的に口腔ケアを行わず、出来る範囲でご利用者様にして頂いています。口腔ケアに激しい抵抗がある方が居りましたが、日々の取組によりかなり穏やかに口腔ケアが出来る様になっています。必要な方には訪問歯科での対応もしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、車椅子の方でも必ず日中は定期的(トイレ)にお連れしています。完全な把握は困難を極めますが、パッド等の使用回数を減らすことで、経済面での支援をする、という意識も高くもって支援しています。	職員間における情報の共有(排泄パターン・サイン)において、見守りの在り方や動作への気づきを大切に支援に繋げています。羞恥心や臭いへの配慮に努めながら、思いに添える(拒否・夜間のポータブル使用)援助が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずはトイレにお連れする事が大切と考えます。献立は便秘になりにくい食べ物を提供するよう考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決めており、午前中に行っています。しかし、入浴に拒否がある方に関しては、直前にドライブにお連れする等の気分転換をして、入浴にお連れするなどの取組を行っています。	身体機能の低下に伴い、シャワー浴(座位が取れない)や二人介助での支援も多い現状で、管理者は週一回は湯船につからせてあげたらと存意されています。くつろぎ感(好みの入浴剤・会話のふれ合い)の援助に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があったり、必要な方にはお昼寝の時間を提供しています。枕の向きを気にされる方がおり、その都度ご希望の向きで休んで頂いています。夜間は「扉を開けて」とおっしゃる方が居り、安心できるとの事で開けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の機能を理解している方は極一部です。ただ、服薬の際にお薬の説明を求められる事が、その際は説明しています。錠剤での服用が困難な方は粉砕で処方して頂いたり、白湯での服用が出来ない方は、ヨーグルトなどに混ぜて服用して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いやお盆拭きなど、日常のお手伝いをして頂きますが、一部の方に限られます。広く浅くが現状です。毎日ご利用者様同士で、大声での言い合いもありますが、怒る事も人としての大切な感情と捕らえ、安易に仲介はせず見守る事もあります。関係が崩れないよう職員が間に入り、支援しています。喜怒哀楽全てを出して頂きたいです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「帰りたい」とおっしゃる方が数名おられ、その度とはいきませんが一緒に外に出ています。また、「ミカンを買いたい」との事で、計画し買いにいたりしています。近所の100円均一のお店に出かけると、店員の方から「良かったら」と声をかけてくれ、休憩用にイスを出してくれます。毎日、日常的ではありませんがこんな事があります。	寄り添える暮らしを大切に、生活歴の把握を支援(教職歴→小学生の下校時の見送り等)に繋げたり、家族とのふるさと訪問や、地域との関わりの継続の視点より、散歩やご近所の商業施設への買い物や、庭でのお茶会も行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されているご利用者様はごく一部です。お金に関する取組は、当苑では無いのが現状です。お預かり金があり、希望の物があればそこから購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎはしています。ご利用者様からご家族へのお手紙のやり取りはありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	とてもシンプルであり、良い環境だとも思います。しかし、殺風景ともいえます。リビングの壁に季節にちなんだ貼り絵をご利用者様に手伝って頂きながら作って、貼っています。「寒いなー」などあれば空調の調節も行います。	個々の性格や他者との心地よい関わり具合を考慮した座席の配置に取り組んでいます。車椅子の割合が増す中で、環境(家具の配置や整理整頓)整備の配慮や季節の壁面装飾等により、くつろげる雰囲気づくりへの営みが見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様それぞれお気に入りの場所があり、普段はそこで過ごされる事が多いです。お1人になれる環境は無いので、居室を活用する事があります。一箇所に数名の方が集まりカルタやカラオケ等する事があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、ダンス等の家具はご本人愛用の物を使用して頂いています。配置はご家族やご本人と相談し極力反映しています。購入が必要な場合は、ご家族やご本人と相談し、一緒に出かけ、好みの物を購入する事があり、今後も続けていきたいと考えています。	家族との交流を大切に、使い慣れた物や必需品の持ち込みの支援に取り組んでいます。利用者の思いの反映と、心地よく、安心安全に過ごせる居室づくりに努める姿勢が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわかりにくい方がおり、希望にてその方のお部屋の扉に名前を書いて貼っています。その流れでトイレにも印をしています。		